

# 番組審議会 第688回

2024年12月

## ■ 審議会の構成 委員総数 10名

委員長	音	好	宏		
副委員長	江	澤	佐	知	子
委員	尾	縣	貢	萱	野
	喜	田	村	洋	一
	田	中	東	子	
	洞	口	依	子	長
	水	無	田	氣	流
				目	加
				田	説
					子

TBSテレビ	龍	宝	社	長	
	合	田	専	務	
	瀬	戸	口	取	締
				役	
	三	城	コ	ン	テ
			ン	テ	ン
			ツ	戦	略
			局	局	長
	藤	田	編	成	考
			査	局	長
	浜	崎	カ	ス	タ
			マ	ー	サ
			ク	セ	ス
			室	長	
	満	田	番	組	審
			議	会	事
			務	局	長

## ■ 議事概要

1. 審議事項
  - (1) 今年のTBSテレビの番組全般、及び放送界について
  - (2) その他
2. 事務局報告事項
  - (1) 視聴者からの声について
  - (2) 次回審議会について

## 【委員の主な意見】

### ◇2024年印象に残ったTBSテレビの番組

#### □「報道特集」

- ・9月21日放送「自民党と旧統一教会」について、一時の報道が過ぎ去った後もこの問題を取り上げ続けた点に「報道特集」の面目躍如の感があった。
- ・9月21日放送「沖縄“隠された”少女暴行事件」、この視点から切り込むことは見せ方に困難を伴ったと察する。挑戦の姿勢は率先して続けてほしい。
- ・何かの圧力がかかることもなく報道が視聴者に届いていたと思う。作為や権力を感じなかったことは大事だ。
- ・「毎日が調査報道」「横並びにならずに史実に迫る」姿勢は番組随所に活かされていると感じる。

#### □「サンデーモーニング」

- ・膳場貴子さんは関口宏さんの後任という重圧にもかかわらず、しっかり司会を引き継ぎ番組らしさを残しつつもすでに独自色を発揮し存在感を放っている。

#### □報道番組全般

- ・ガザ、ウクライナなど情勢不安な地域で、群を抜いてよく取材していた。「政治と金」「統一教会問題」など難しいテーマを継続的に取材・報道していたことも評価したい。

#### □「THE TIME,」

- ・慌ただしい朝の時間を穏やかに過ごせる番組。これからも朝から視聴者を元気に優しくする番組であってほしい。

#### □「不適切にもほどがある！」

- ・現代の日本社会が抱える不寛容さや閉塞感を、笑い飛ばしながらも上手に表現。
- ・一部テーマの昇華方法をめぐって論争は呼んだものの、非常に楽しく視聴。
- ・主人公は言動こそ荒いが根は優しく娘思いで気骨のある人物だとわかり、どんどん魅力的に見えてくる。このあたりの匙加減がさすが宮藤官九郎脚本作品。

□「Eye Love You」

- ・地上波のGP帯ドラマに韓国の俳優が相手役として出演し人気を博したという点で、エポックメイキングな作品だった。
- ・韓国ドラマが独占していた視聴者層を逆の発想でごっそり取り返すほどの話題性と勢いで多くの人を魅了した。

□「海に眠るダイヤモンド」

- ・ノスタルジックな人情も含め、見る者の心を熱くする作品だった。時代考証やセット美術への目配りも光っていた。

□「ラヴィット！」

- ・最近はときどき「つまらないときがある」ように思えるのがすごい。いろいろチャレンジしている証拠だといえる。

□「水曜日のダウンタウン」

- ・年末滑り込んだ、ダイアン津田さんのドッキリに拍手。ラテ欄にも灰めかさなかった徹底ぶりに作り手のエンタメ性を感じる。

□スポーツ中継番組全般

- ・人気タレントの進行などに頼らず、競技をリスペクトした中継・解説を大切にしているように思う。この姿勢をぜひ継続していただきたい。

**◇TBSテレビの番組全般、および今後のTBSテレビに望むこと**

- 局のコアとなる報道がしっかりしていれば、視聴者の信頼が必然的に寄せられ親子で見る／見たい番組が増えていくと思うのでこの循環を大切にしてほしい。

- TBSの今の態勢を取り続け（姿勢としての保守）、さらに新しいものを加える（姿勢としての革新）番組を望む。

- テレビというメディアが今後どう有り続けるのかも含め、テレビじゃなければ

できないよね、という番組を続けて欲しい。

- TV e r、NEWS D I Gなど、番組のマルチ展開に向けたトライアルを評価。新たなテレビ番組の展開の可能性を積極的に探してほしい。
- 2025年は終戦80年。報道だけでなくドラマやバラエティなどでも、過去を振り返ることで現在の立ち位置を確認し未来を思考できるような企画を期待。
- スポーツ中継にも今まで通り注力を。競技だけでなく裏側も伝えることでアスリートの魅力、スポーツの価値も視聴者に感じてもらえると思う。
- 番組考査／CM考査においては、脇をしっかり固め、ミスゼロを目指していただきたい。
- 松本人志さん問題にどう対応するのか。復帰を視聴者が受け入れるとしても、本人からの説明とともにテレビ局としての説明も必要になってくるのでは。

#### ◇放送界全般について

- テレビのリーチ力、信頼性はいまだ高く評価されている。放送倫理の向上につとめ、積極的に質の高い番組作り、新たな放送文化への挑戦を進めてほしい。
- 終戦80年を迎え、歴史修正主義的なフェイクニュースがSNSに溢れることが予想される。テレビ局を含めた「オールド・メディア」が形だけの公平・中立性を意識した報道に偏らないよう期待しながら注目したい。
- 災害時対策を進めるにあたり、キー局間・系列局間との連携をさらに強固にしていくことを願う。
- ニュースやスポーツ、バラエティなど様々な場面で活躍する番組の顔、アナウンサーの起用・育成も重要。

□人々はテレビ番組を見なくなったのではなく「テレビ」という機器で長時間腰を据えて見なくなったに過ぎないと思っている。テレビ局主導でSNS向けショート動画の提供を増やしてはどうか。

□テレビ局の強みである高いコンテンツ制作力を維持しつつ、業界全体として働き方改革をさらに進め、働く場としても魅力的な場で有り続けてほしい。

\*TBSテレビでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。(TBSテレビ番組審議会事務局)